

みんなでやらいや  
水田農業わくわくプラン

～農業効率化、人材確保による生産力の安定的強化～

作成年度 令和2年度  
変更年度 令和4年度

作成者 農事組合法人  
エコファームHOSOYA  
代表理事 三上 惇二

# みんなでやらいや水田農業わくわくプラン

作成者 農事組合法人エコファームHOSOYA  
代表理事 三上 惇二  
事業主体 農事組合法人エコファームHOSOYA

## 1、プランの取り組み内容

経営面積が急拡大しており、前回の計画を踏まえながら育苗ハウスの新設、自走式ラジコン動噴の導入、米倉庫の増設を行い持続可能な経営改善に努める。

また、自社米のブランド力向上と地域の精米需要に高いレベルで応えるために、JGAP対応の精米所を整備する。もって、持続可能な地域農業の実現に寄与する。

## 2、はじめに（プラン作成に至った経緯等）

集落は広島県、岡山県、島根県に隣接する日南町の中で、日野川の支流小原川の上流に位置し、天気予報で知られるアメダス観測地点がある。標高 480～560mの準寒冷地域であり、農地は一部を除き急傾斜地で生産条件は厳しい環境に有る。また農業者の高齢化、後継者不足、農業収入の不安定化等により集落機能、及び農業生産体制が低下してきた事により、自己完結型農業から平成18年集落営農体制への転換を図り、平成24年3月に法人を設立した。

少子高齢化が加速度的に進む中山間地において、持続可能な法人経営を実現するには規模拡大と生産性向上が必要不可欠であり、そのために当法人では規模拡大と並行して一貫した大型高性能機械の導入に努め、人的資本の効率的利用による生産性の向上を目指してきた。

生産性の向上のためには消費者への直売も重要と考え、当法人では自社精米による事業者への高単価販売を行うため、比較的大きな精米施設を整備した。しかし、現在の精米施設の規模及び能力では、①規模拡大した分の精米や他法人に委託している精米を自社で行うには能力不足なこと、②無洗米など多様なニーズに応えられないこと、③HACCAPに沿った衛生管理ができないことなどから、プランを変更して新たに精米プラントを整備することにした。

## 3、生産経営の現状・課題

### 1) 生産経営の現状

- 平成24年3月農事組合法人エコファームHOSOYAを設立（営農組織を法人に移行）出資金 円、参加農家24戸、1農業生産法人
- 令和2年現在農地集積面積 36,07ha(30年 30,36, ha) 水稻作付 28ha(30年 22,7ha) 水田活用面積 8,1ha で経営しているが令和2年中途から高齢者農家が離農され為に受託する面積がさらに拡大する。

- ・全面積で海藻有機肥料を使った特別栽培コシヒカリを主体にソバを生産し、水田オーナー、契約栽培のお米屋さん、企業の社員食堂、ホテルなどの外食産業、環境貢献型商品としてカルビーのEVIショップ、道の駅にちなみ日野川の郷などに出荷している。
- ・経営規模の拡大に伴い、平成27年3月より常勤職員1名を雇用した。
- ・がんばる農家プランを作成(平成29年認定、31年まで実施)すると共に、集落営農体強化支援事業(31~2年度)に取り組み営農体制の強化に努めている。(導入機械・電気式リモコン草刈り機、乾燥機、スピードカルチ)

## 2) 前回プラン等での取り組みと効果

- ①大型コンバイン5条刈りと低温貯蔵庫を導入し、生産から販売まで一体的な運営体制の整備を図り、適期の刈り取りと作業効率の向上及び品質の安定向上につながった。また、低温貯蔵の能力が増大した事により通年販売量が拡大した。
- ②密苗育苗によりコスト削減を図ると共に大型田植機(8条植え)、播種機、育苗機の導入により慣行育苗による田植作業の効率化と併せ、密苗育苗による田植え、育苗ハウス削減、育苗コスト削減、苗運搬、苗補充などの田植作業労力を削減し春作業に集中する労働力のピークを分散させるなどの波及効果が表れた。
- ③ホークリフトの導入により作業能力の向上と作業の安全に効果があった。
- ④大型トラクター、スピードカルチを導入して作業能力の向上と春秋に作業を分散、平準化に効果があった。

## 3) 課題等

- ①隣接した集落の中山間直接支払協定を集落で引き受けることになりさらに面積が拡大した。これに伴い水田の管理はもちろんだが、ほ場周辺(河川護岸、県道、町道、農道、林地、原野等)営農に影響を及ぼす用地の管理が急増し、負担が増大している。
- ②現在集積した農地に未整備田(集落内)が2,85ha、管理が必要な畦畔法面が3,2ha有り不効率な生産条件となっている為、労力の負担が大きい。
- ③お米の複数年契約販売が定着し、精米(月200袋)配達(ゆうパックを含む)の業務が増えると共に人手不足が深刻な事から新しい技術を取り入れると共に高性能機械による作業の省力化と人材の確保を行い生産力を安定的に強化する事が急がれる。
- ④法人の構成員の中に96歳を筆頭に80歳を超える農業者が営農(3,8ha)されているが早晩離農される事が予測される事から対応が必要となっている。
- ⑤急激な栽培面積の増加により新たな販路の開拓が急がれる。

## 4) 新たな課題

当法人では令和5年度を目標に生産量の約9割を精米販売する計画であるが、現在の施設の規模及び能力では、①規模拡大した分の精米や他法人に委託している精米を自社で行うには能力不足なこと、②無洗米など多様なニーズに応えられないこと、③HACCAPに沿った衛生管理ができないことなどから、精米施設の大幅な能力拡大が必要となってい

る。

また、精米加工による高付加価値販売が重要性を増す中、食品衛生法の改正に対応できなくなった等の理由でJAグリーンにちなんが令和3年5月をもって精米加工事業を廃止した。町内最大規模の精米施設がなくなったことで、同施設を利用していた町内の農業法人や農家などから、町に対して食衛生法の改正に対応した精米施設を整備するよう求める声が大きくなっている。

現在、町内には現在、当社及び[ ]に精米施設があるが、どちらも受け入れの余力はほとんどない。その他農業法人が持っていた小型精米機についても、管理の難しさから現在は利用していないところが多いという。JAグリーンにちなんに精米加工を委託していた町内事業者(年間2,000袋程度)は現在のところ、コイン精米機を利用したり町外の精米所に持ち込んだりして対応しているが、品質、精米施設までの距離、対応速度など問題が多い。

#### 4 生産経営等の改善内容(目標)と効果

##### 1) 改善内容

- ① 本田の除草剤散布、ミネラル剤散布、及び管理の必要なほ場周辺用地への除草剤散布を行う為に自走式ラジコン動噴を導入する。
- ② 豊作計画の導入を行い、農業の効率化、人材育成、担い手の確保に努める。
- ③ 借用しているハウスが老朽化して倒壊の恐れがある為に育苗ハウスの新設(年次計画3棟)を行う。
- ④ また、生産量の増大に伴い、米倉庫の増設を行う。
- ⑤ 販路拡大については消費者との交流活動を行い一層の拡大を図る。
- ⑥ 自社拡大分及び町内精米需要に質・量ともに十分耐え得る精米所を整備する。具体的には、多様化する精米需要に応えるために無洗米機能のある精米機の導入、HACCPに沿った衛生管理を行うために異物除去装置及び金属検出器の導入、地域の隠れた労働力の掘り起こしと農機オペレーターの有効活用のために力の必要ない誰でも精米作業が行えるプラント設計を行う。

##### 2) 事業の効果

- ① 粒剤散布で取り残した雑草の除去、登熟を高めるミネラル剤を散布して良質米を生産すると共に、除草剤散布により雑草を抑制しながら農地周辺の環境改善を図る。
- ② 豊作計画を導入して生産工程の見える化を行う事により、水田の作業効率の向上と人材の育成、担い手の確保を容易にすることが出来る。
- ③ 密苗育苗拡大することにより一層のコスト削減、労働力の分散化を図りながら、安定した良質苗を生産できる。  
また、収容能力の拡大、作業の効率化を図ると共に、衛生的な保管環境を構築する。
- ④ 販路拡大を着実にを行う事により経営の安定に貢献する。
- ⑤ 地域の人が幅広く精米作業に携わってもらえるようになるため、精米作業と袋詰め作

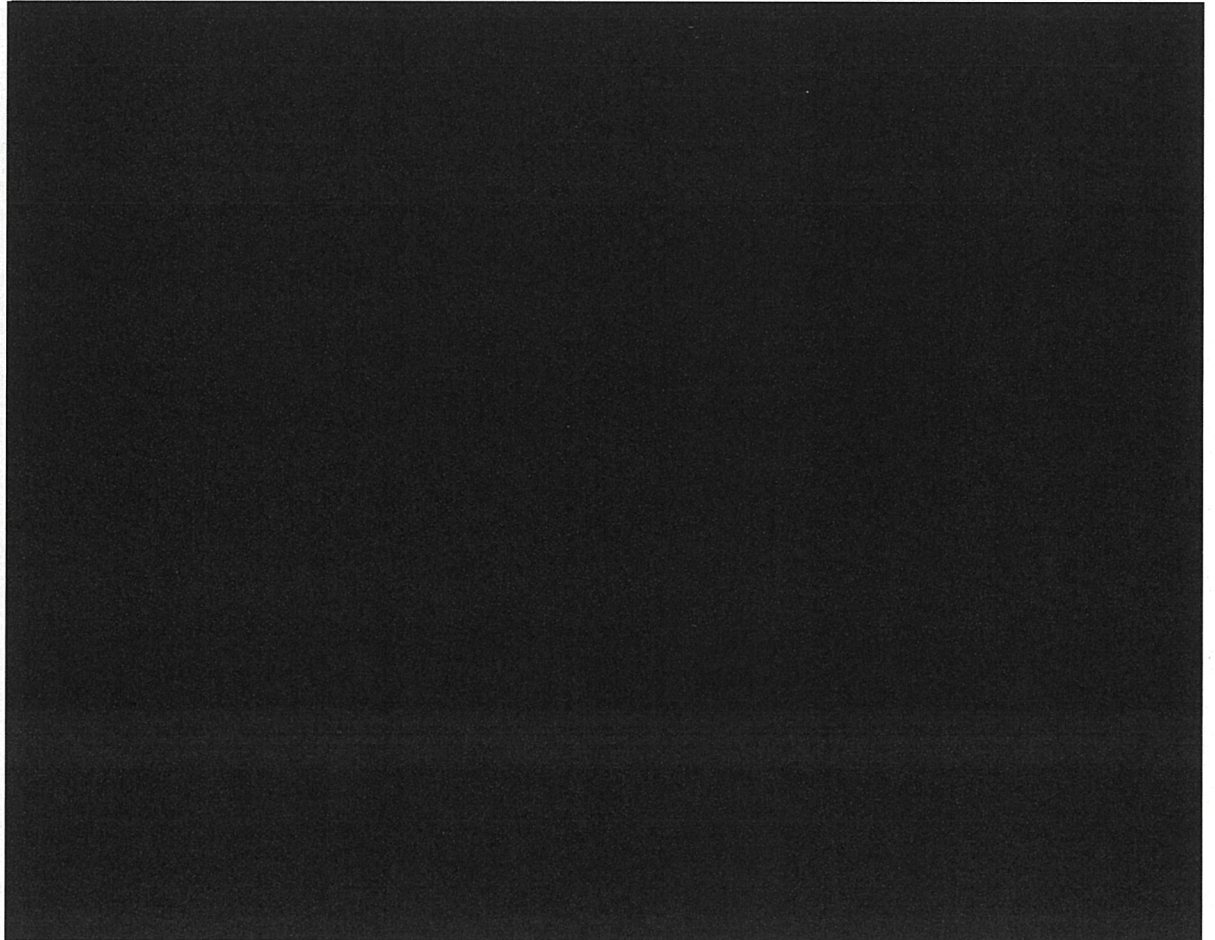
業に忙殺されていた機械オペレーターを兼任する男性正職員が外作業に注力できるようになり、規模が拡大しても適期作業が可能となる。同時に地域の女性の力を活用できるようになる。また、手間を省きたい飲食店の無洗米需要に応えることができるようになり、より高単価での販売が可能になる。更に、町内の米農家からの精米需要に応えることが可能になる。

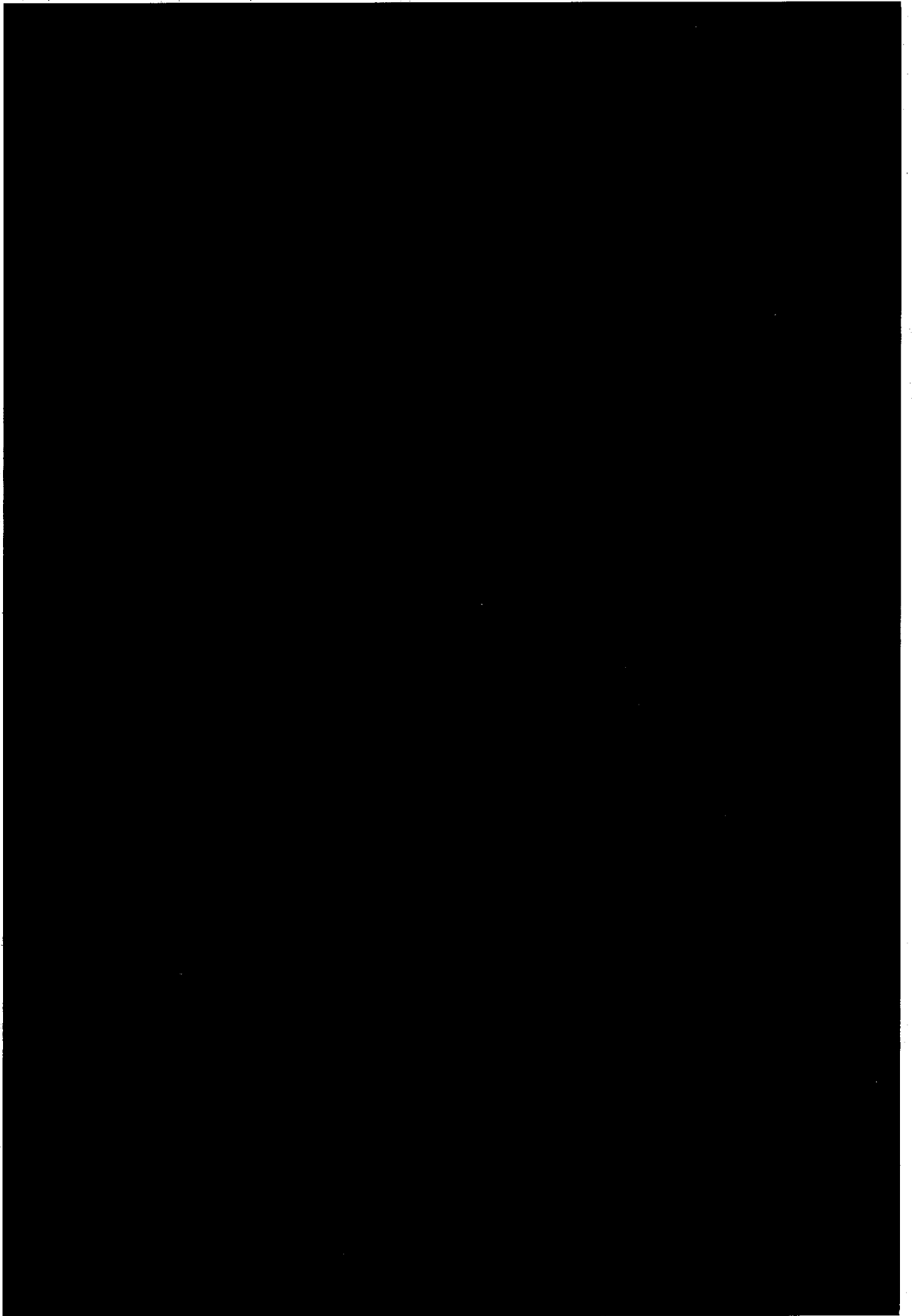
### 3) プランの目標値

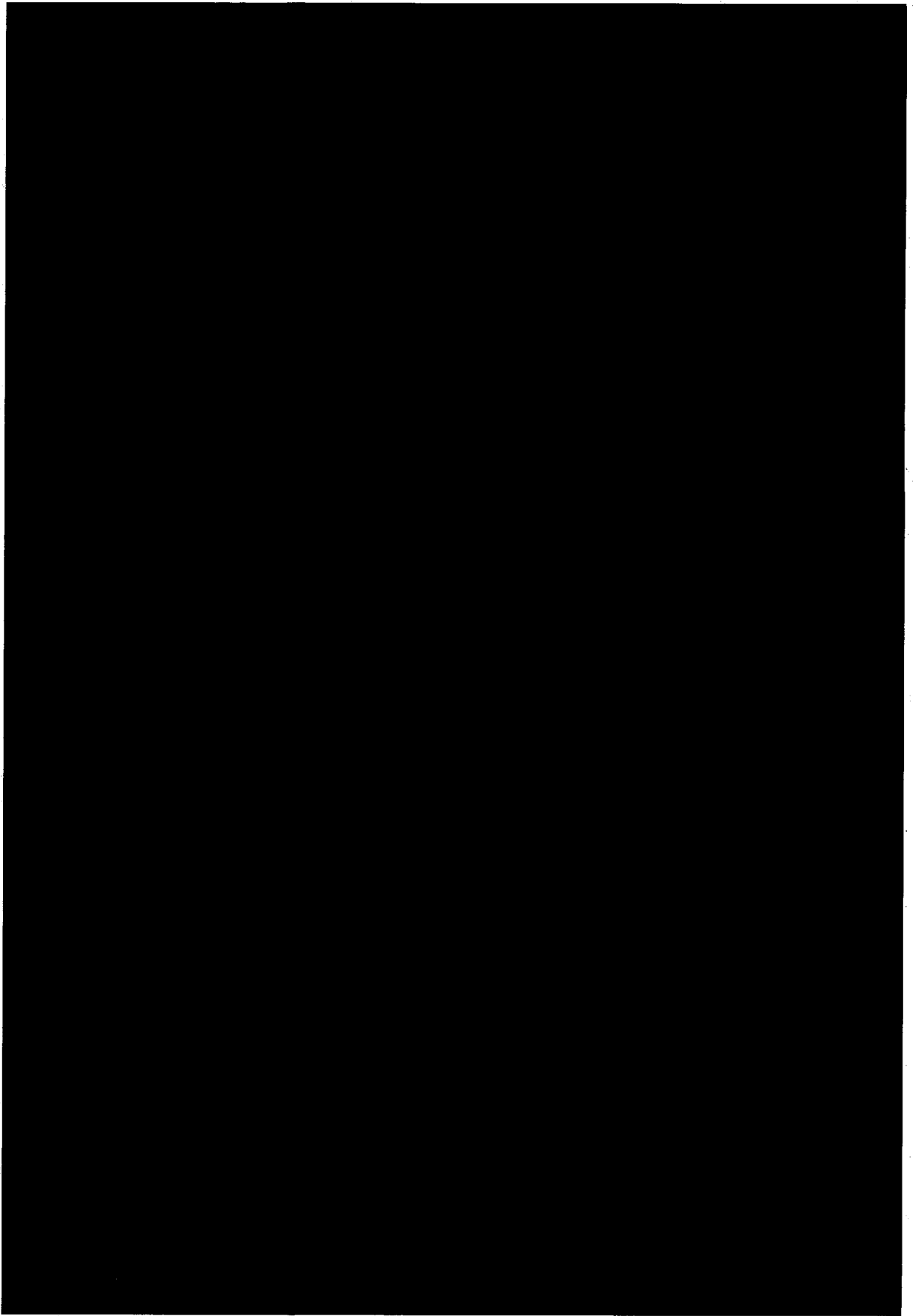
目標	現状 (R1)	1年目(R2)	2年目(R3)	3年目(R4)	目標年(R5)
水稲作付面積	水稲 2,277a	水稲 2,800a	水稲 2,920a	水稲 3,120a	水稲 3,200a
自社米の精米販売数	—	—	2,520袋	2,520袋	4,000袋
精米作業受注量	—	—	300袋	300袋	1,300袋

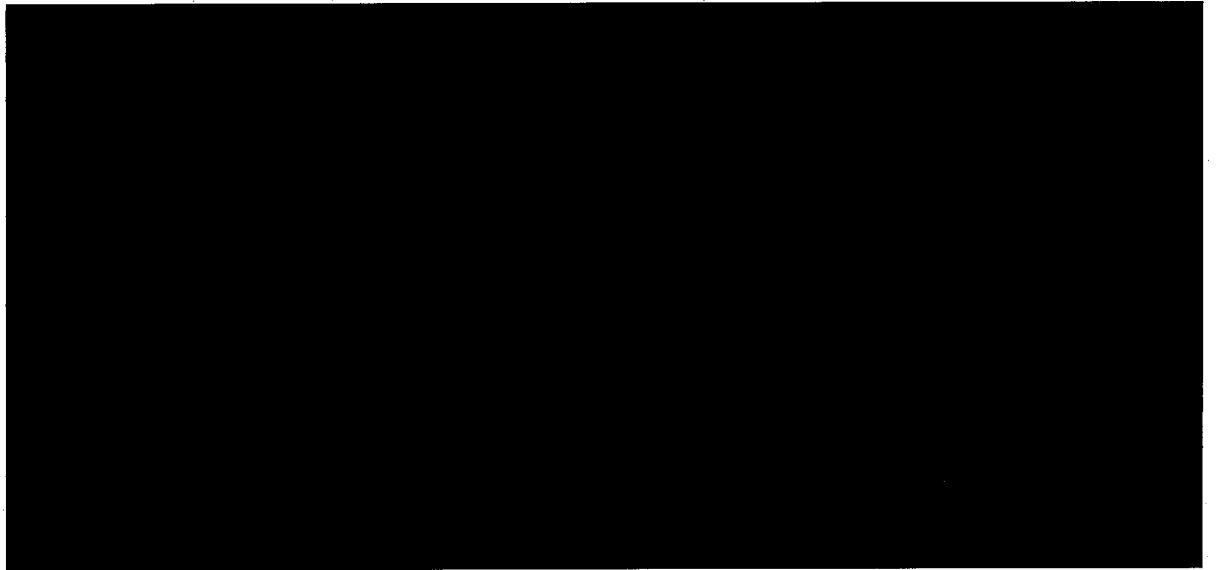
<所有機械>

補助事業 一覧 (令和4年6月現在)

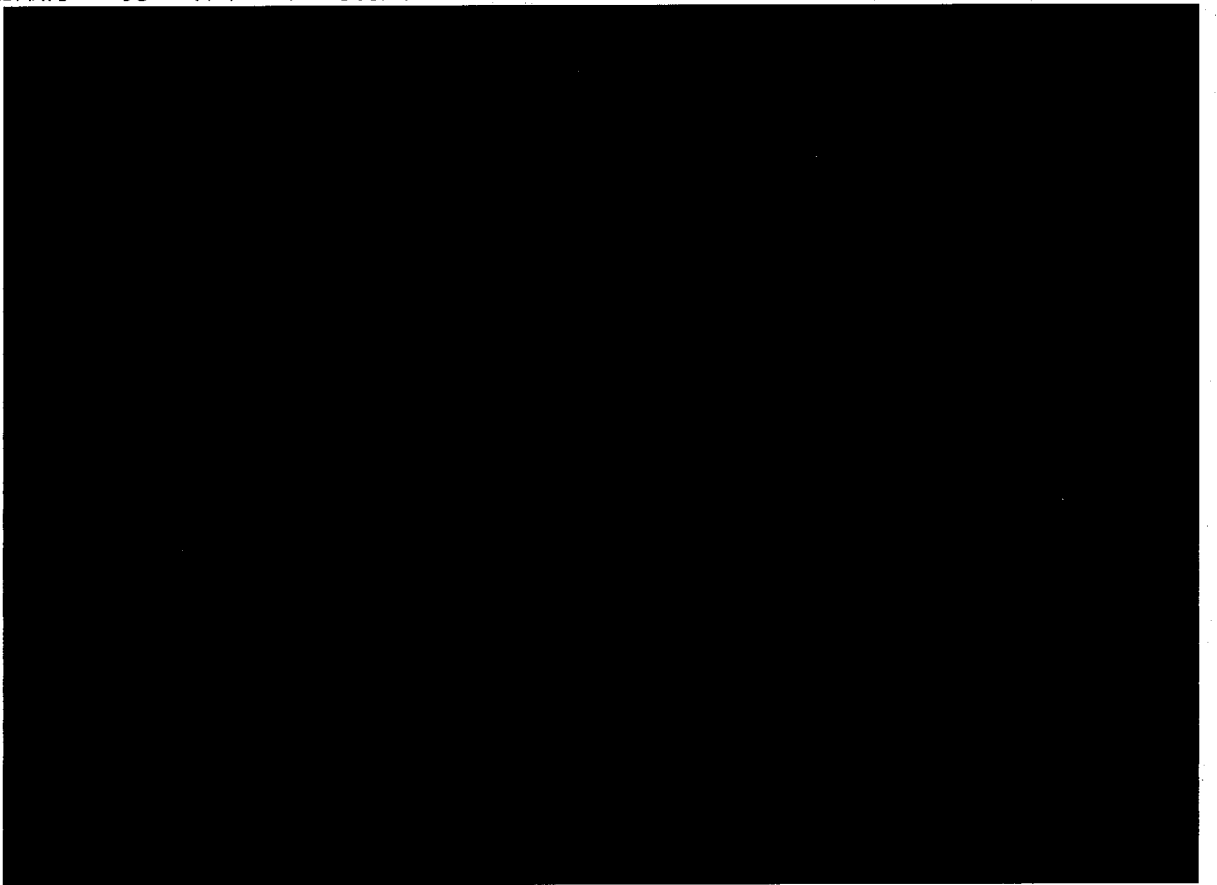








単独取得 一覧 (令和4年6月現在)



5 目標達成に向けての取組 (年次別の行動計画)



項 目	内 容	R2年	R3年	R4年	R5年
経営管理の合理化	トヨタ自動車の管理ツール豊作計画を導入 JGAP：HACCPに取り組む 水田オーナーの確保と新たな販路の拡大	○	○	○	
農業経営の規模拡大	引き続き中間管理機構を活用して農地の集積を行う。	○	○	○	
大型高性能機械施設の導入	育苗ハウス新設	◎	◎	◎	
	自走式ラジコン動噴の導入	◎			
	米保管庫の増設		◎		
後継者の育成	常勤職員の確保。	○	○	○	
交流事業	春・秋に体験型イベントを行うと共に、主な消費地に出向き意見交換などの研修を行う。	○	○	○	
精米施設の整備	無洗米、HACCP、町内の精米需要に対応できる精米施設の整備			◎	

\* ◎は県、町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

## 6 機械・作物の年次別計画

年 度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年(目標)
機械・施設導入計画	育苗ハウス 自走式ラジコン動噴	育苗ハウス 米保管庫	育苗ハウス 精米施設	
ソフト事業計画	・豊作計画の導入 ・交流事業 春、秋に体験型イベントを実施して相互の信頼関係を構築する。	・豊作計画の活用 ・インターンシップの受け入れ ・交流事業 春、秋に体験型イベントを実施して相互の信頼関係を構築する。	・豊作計画の活用 ・インターンシップの受け入れ ・交流事業 春・秋に体験型イベントを実施して相互の信頼関係を構築する。	
対象作物の生産計画	水稲 2,800a 反収 480kg (内、オーナー水田 600a) ソバ 807a 作業受託 田植え 250a	水稲 2,920a 反収 480kg (内、オーナー水田 650a) ソバ 807a 作業受託 田植え 100a	水稲 3,120a 反収 480kg (内、オーナー水田 650a) ソバ 807a 作業受託 田植え 100a	水稲 3,200a 反収 420kg (内、オーナー水田 700a) ソバ 910a 作業受託 0a

	稲刈り 50a	稲刈り 50a	稲刈り 50a	1,300袋
--	---------	---------	---------	--------

(注) ( ) 書きには事業費を記入すること

## 7 支援事業の内容

(単位：円)

内 容	事業費				負担区分
	R2 (計画)	R3	R4	R5	
育苗ハウスの新設	2,300,000				県 1/3 町 1/6
自走式ラジコン動噴の導入	1,200,000				
育苗ハウス		2,300,000			事業主体 1/2
米倉庫の増設		4,000,000			
育苗ハウスの新設			2,560,000		
精米施設の整備			22,778,690		
豊作計画の活用 ヤンマースマートアシストリ モートの活用 JGAP認証取得 インターンシップの受け入れ	導入	活用	活用	活用	